

弥生文化の起源と東アジア金属器文化に関する研究

小林, 青樹

<https://hdl.handle.net/2324/1654967>

出版情報：九州大学, 2015, 博士（文学）, 論文博士
バージョン：
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（2）

氏 名	小林 青樹			
論 文 名	弥生文化の起源と東アジア金属器文化に関する研究			
論文調査委員	主 査	九州大学	教授	宮本 一夫
	副 査	九州大学	教授	川本 芳昭
	副 査	九州大学	教授	坂上 康俊
	副 査	九州大学	准教授	辻田 淳一郎

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本論は、板付土器様式に見られる文様の起源、青銅器の起源と系譜、東アジア周辺域の青銅器の展開、鉄器の起源と系譜といった四つのテーマから、日本列島に登場した水稻農耕社会である弥生文化の特質を実証的に明らかにした論文である。本論文は全体で 6 部からなるが、第 I 部では、四つのテーマの問題の所在が述べられる。

第 II 部では、弥生土器の成立に関する問題が論じられた。北部九州弥生土器の始まりが朝鮮半島無文土器文化との接触にあることはよく知られた事実であるが、その後の板付土器様式の成立にあつて、壺形土器の文様の起源が縄文晩期の亀ヶ岡式土器の文様にあることを初めて明らかにした。弥生土器の成立に縄文文化の系統があつたことを明らかにしている。

第 III 部は、北部九州の弥生前期末・中期初頭に流入した銅剣・銅矛・銅戈の系譜を北方青銅器文化に求めた。それら青銅器の東北アジアにおける詳細な系譜関係や編年を示すことにより、弥生文化の青銅器の起源が北方青銅器文化にあることを実証的に示している。

第 IV 部では、青銅器とりわけ銅戈が大型化し儀器化していく傾向が、東南アジアにも認められることを明らかにした。さらにそうした傾向と日本列島の弥生時代の青銅器の大型化・儀器化することとを対比しながら、東アジアにおける青銅器文化の周辺現象として捉えられることを提唱する。

第 V 部は、弥生時代前期末・中期初頭に出現する鉄器の系譜を東北アジアにおいて明らかにし、その起源が中国戦国時代の燕国にあること、燕国の領域支配の拡大と鉄器化の進行に伴い、こうした鑄造鉄器が朝鮮半島から日本列島に広がっていくことを明らかにしている。楽浪以前の燕による弥生時代での影響関係を把握する必要性を提起する。

終章の第 VI 部では、こうした四つのテーマを総合化しながら、弥生文化の成立と展開を東アジア的に論ずることに成功している。

このように、本論文は、弥生文化の成立と展開を、縄文文化との内的な影響関係とともに、青銅器にみられる北方アジアの系譜、鉄器に見られる燕の影響、さらにこのような青銅器文化の展開が東アジアの周辺現象として認められることを示した。これは、これまでにない優れた論文であり、学界に大きく裨益するものとなるであろう。

以上から、本調査委員会は、本論文の提出者が博士（文学）の学位を授与されるにふさわしいものであると認めるものである。